

イ草農家の歩み(2)

誌名	農業技術
ISSN	03888479
著者	新良, 貴厚子
巻/号	28巻12号
掲載ページ	p. 560-560
発行年月	1973年12月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat

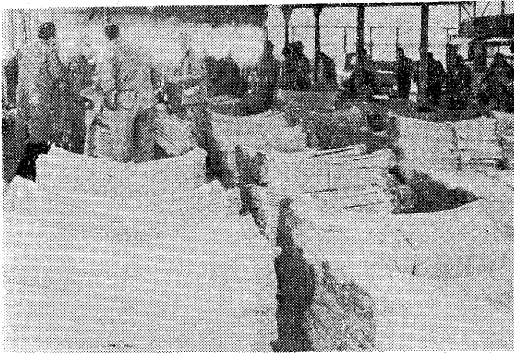


イ草農家の歩み

—2. 婦人とイ草のたたかい—

新良 貴厚子

備後表がいつごろから作られていたのかはっきりしないが、古事記(711年)に畳という字が初めて見られ、その頃イ草を栽培し、畳を作っていたことは想像できるが、備後表として全国に名が知られたのは、天文・弘治(1532年)のころだと『備後表』(広島県イ草協会出版)に書いてある。そのころ山南村(現在の沼隈町)で水田に、イ草を栽培し、引通表を製織したのが初めてである。その後1600年、山南の長谷川新右衛門が、それまでは捨てていた短いイ草を使って織る中指表(中継表——なかつぎおもて)を発明したことによって、畳業界は一大改革され



婦人の汗と労働によって製品となったタタミ

た。また施策面で、芸備の領主福島正則の保護によって国産としての基礎がつくられた。以後時代の為政者の保護によって発展して、全国的に有名な備後表となった。

以来イ草は、土質、気候条件、染土等のよい条件に恵まれたことと、農家のたゆまぬ努力によって、備後を中心に盛んに栽培されてきた。イ草栽培の重労働と闘った沼隈半島の婦人は、偉大といわざるをえない。

イ草栽培は、春の彼岸ごろ、イ草をこしらえて畑に伏せ、肥料を施したり草をとって、イ草を育てる。稲を刈りとった後の水田を、稲作よりも深く耕し、肥料もたくさん施して水を入れ、畦をぬり、代かきをする。耕耘機がなかった頃は、男が牛ですき、女が手のひらに、指の数よりもよけい豆をだして、くわで土のかたまりをくいだいた。

雪が降る日もある11月下旬から12月上旬にかけて、昼に苗を掘って持ち帰り、夜なべ仕事に株ごしらえをする。あかぎれができて、かじかんで感覚のなくなった指

で水田に定植する。そして翌年にまわって、除草、先刈り、施肥、網かけ、害虫防除等の管理をして、7月の炎天下、イ草刈りをする。

イ草刈りは、まだ明けやらぬ朝4時頃起きて、空模様を確かめて、昨夜刈って泥染めしたイ草を、田や道端に乾す。9時半頃からイ草を反転して、午後2時頃から、乾したイ草を束ねて納屋へとり入れる。番茶を食べてすぐ4時頃から刈り始めて夜に入り、泥染めをして夜なべ作業を終わるのは通常10時頃である。遅い夕食を食べて、風呂に入って床につくのは、早くても11時過ぎになる。女にとっては、台所の後片付けや明日の食事の準備があるので、眠るのは12時頃になる。

イ草刈りは、家族労働による作業であるため、大体役割りがきまっている。泥染めは男、刈りとりは男女、はかまをそぐって束ねるのは女、泥つぼまで運ぶのは子供や女、泥染めは男、乾したり反転するのは全員という作業分担が一般的である。

イ草刈りの女の労働は、特に長時間の激しい労働である。1日6回分の食事作り、洗濯、風呂たき等の家事とイ草刈りである。わが子に乳を飲ます時間も惜しむようにして、すぐ農作業の仲間に入る。暑さと疲れで、綿のようにクタクタになって、短い夜を眠り、翌朝の明け方には、簡単な食事をして、男と同じ時間に活力をふりしぼって、イ草乾しに出る。こうした日課が一週間くらい続いて、イ草栽培のゴールインである。

このような作業の中で一番つらいのは、俄雨がきて、乾燥中のイ草をぬらしたときである。そんなときには、夕ご飯も朝ご飯も欲しくない。全身を張りつめていた神経が、へなべなにゆるんでしまう。一年半も手にかけたイ草が、最後の数分で、みすみす半値になってしまうことを一番おそれ、ひたすら晴天が続くことを祈って、ドラマチックなイ草の収穫作業を終える。そして期待どおり換金作物の中で最も多額の所得が手に入ったとき、イ草を栽培した者だけがしる喜びにひたれるのである。今は、イ草収穫作業の機械化が行なわれて、婦人の労働も大きく変わることであろう。(広島県福山農業改良普及所)

農博 川廷謹造・三枝浩三共著(第9版)

大型トラクターとその利用

A5判 386頁 定価1,200円 千140円

主要目次: Iトラクターの発達とわが国における利用状況 IIトラクターの構造と性能 IIIトラクターの取扱い・運転・整備 IV作業機の種類と構造—耕耘、整地用・施肥、播種用・中耕除草用・薬剤散布用・収穫用・牧草用・土工用・運搬用、その他 Vトラクター利用の前提と営農 VI利用と作業法—トラクターの選択・作業機の利用・トラクター利用による作業法と作業機の利用